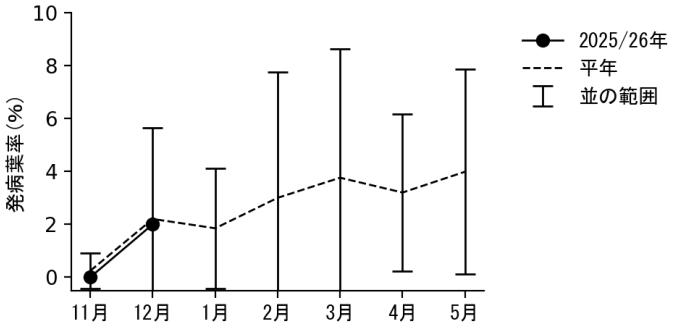
令和　7 年度　　1 月予報

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予　報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

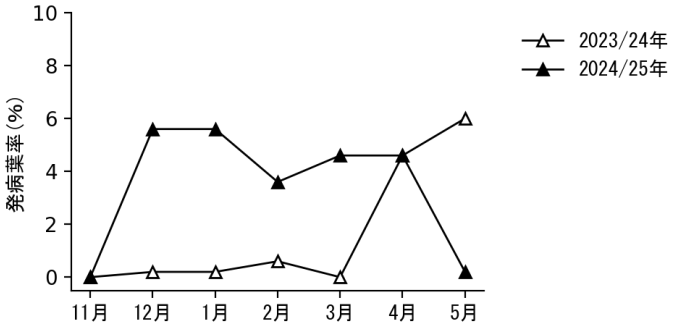
調査結果

発病葉率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率60.0%（平年：30.0%）

防除のポイント

・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。

・過繁茂を避け、透光通風を良くする。

・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。

・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

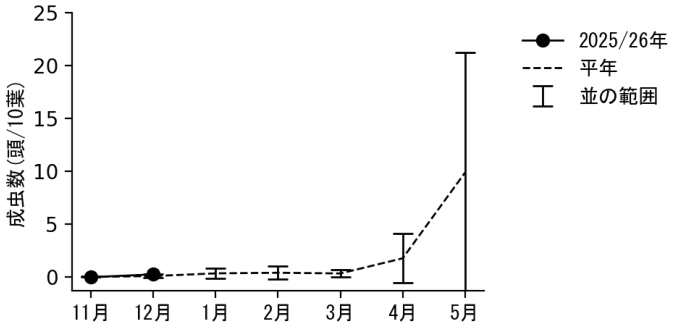
令和　7 年度　　1 月予報

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	② タバココナジラミ		成虫	
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

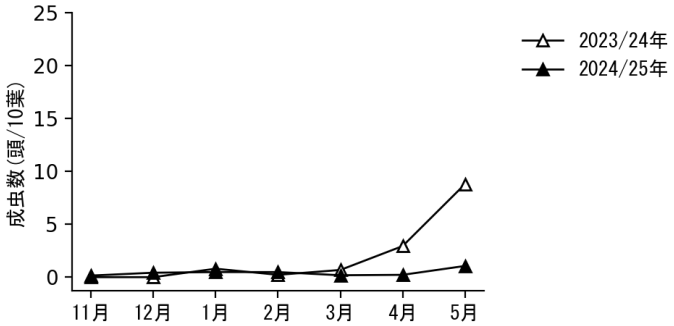
調査結果

成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率60.0%（平年：10.0%）

防除のポイント

・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

幼虫

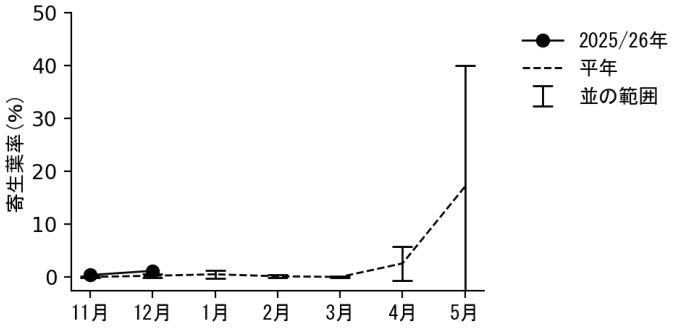
令和　7 年度　　1 月予報

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

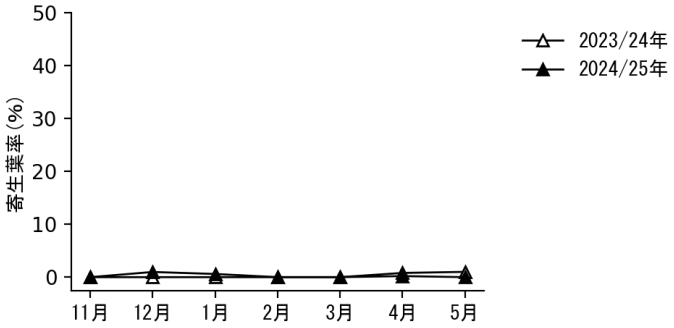
調査結果

寄生葉率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生種：トマトハモグリバエ

・発生施設率40.0%（平年：16.7%）

防除のポイント

・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。

・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

幼虫の死骸
（農薬などで死亡すると黒色に変色）